６．採卵鶏における *Streptococcus gallinaceus* 分離事例

兵庫県姫路家畜保健衛生所
〇石井淳、吉田裕一、加茂前仁弥、亀山衛、鈴木忠、小倉裕司

【はじめに】

Streptococcus gallinaceus（以下 Sg）は 2002 年に敗血症の肉用種鶏で初めて報告された新菌種である。2006 年の食肉処理場作業員の感染・発症例や 2010 年の愛玩用フクロモモンガの集団感染例など、公衆衛生上注意が必要であるがその報告数は少ない。今回、管内で国内初発と思われる採卵鶏における Sg 分離事例があった。

【発生状況・病理所見】

平成 28 年 6 月、196 千羽飼養の採卵養鶏場において、1 鶏舎（ボリスブラウン、46 週齢、31 千羽）で 1 日 20 羽程度の斃死が続き、病理解剖の結果５羽中２羽で肝臓の腫大・斑状壊死等が確認された。病理組織学的所見では肝細胞の壊死と偽好酸球の集簇が顕著であった。

【細菌検査】

斑状壊死を認めた肝臓よりカタラーゼ陰性・グラム陽性連鎖球菌が純培養的に分離された。市販の同定キットでは *Enterococcus* や *Aerococcus* が候補に挙がったものの、生化学性状が異なる点も多く同定は困難であった。そこでダイレクトシークエンス法による 16S rRNA 遺伝子の塩基配列解析の結果、Sg の基準株と 100%相同性が一致した。

【まとめ】

Sg は市販キットによる同定が困難なため、病性鑑定で Sg と同定されていない可能性がある。しかし、公衆衛生上重要であることから、今後、家畜における病原性や保菌状況等の調査及び迅速同定法の検討が必要であると考える。